

事例 40 国有林野の活用を通じた東日本大震災からの復興への貢献

(関東森林管理局 福島森林管理署、磐城森林管理署)



- 福島県いわき市 かみねもと 上根本国有林
- 運転を開始した三大明神風力発電 さんだいみょうじん
(令和6(2024)年10月)

福島県は、東日本大震災からの復興に向けた施策として、「福島県再生可能エネルギー推進ビジョン2021」を掲げ、再生可能エネルギーの推進に取り組んでいます。風力発電についても導入拡大に向けた取組が進められており、こうした背景から、県内では阿武隈地域を始め、各地の事業化に適した風況を有する箇所において、複数の風力発電事業が計画されています。

このような中、管内に阿武隈地域を有する福島森林管理署と磐城森林管理署では、国有林野の活用を通じて東日本大震災からの復興へ寄与することを目的に、風力発電事業用地として地元等と調整が図られた国有林野の貸付等を実施しています。

両署では、令和6(2024)年度末時点で、風力発電事業用地として9件、254haの貸付等を実施しており、管内では既に3件の発電所が運転を開始しています。次年度、さらに2件の発電所が運転開始予定であり、引き続き国有林野の活用を通じ、東日本大震災からの復興に向けた地域の取組に貢献して参ります。